

Syllabus Id	Syl-062332
Subject Id	Sub-062-007700
更新履歴	20080314 新規
授業科目名	日本語 Japanese as the Second Language
担当教員名	高澤啓子 TAKASAWA Keiko
対象クラス	4年留学生
単位数	2履修単位
必修/選択	必修
開講時期	20 通年
授業区分	語学
授業形態	講義・演習
実施場所	留学生選択教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

専門学校、大学などで必要な論理的文章の読解・作成、資料の読み取り・分析、プレゼンテーションに関する訓練を通し、日本で留学生活を送る上で必要なコミュニケーション能力と、日本語で学習研究活動を行うために必要な日本語能力を養う。長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能で「国際人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。日本に長期滞在する留学生には、学習研究活動を行うために必要な日本語のみならずバランスの取れた高い日本語力を身に付けることがどれ程メリットがあることを考える機会も持たせる。後期後半では、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接指導も含む。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験 2 級以上の日本語能力、日本事情

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
		D 日本語による論理的文章の作文力、口頭発表力、コミュニケーション能力を養う。レポート作成能力の向上。異文化理解。	
学習・教育目標の達成度検査		1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。	

授業目標

自分の専門分野の論文を独力で読むことが出来る。論理的文章を書くことが出来る。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。教科書の読解、講義の聴講、実験実技を円滑に行うことが出来る。「日本(人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できませんが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	文体	レポート、論文に使われる文体 / 自動詞・他動詞の形と意味・機能	
第3回	文の基本	自動詞と受身 / 自動詞・他動詞の使い方	
第4回	文の基本	「は」と「が」 / 自動詞・他動詞の慣用的表現	
第5回	文の基本	名詞化 / 形が似ている動詞	
第6回	文の基本	首尾一貫した文 / 「(さ)せる」の形と意味・機能	
第7回	記号	句読点、各種記号 / 「(さ)せる」の使い方	
第8回	引用	引用のしかた / 使役の比喩的表現	
第9回	段落	段落の構成 / 「(ら)れる」の形と意味・機能	
第10回	段落	段落相互の関係 / 「(ら)れる」の使い方	

第11回	仕組みの説明	「株式会社のしくみ」 / 「(ら)れる」の慣用表現	
第12回	仕組みの説明	「外国人の市制参加」 / 敬語を中心とした対人関係の表現	
第13回	歴史的な経過	「さっぽろ雪祭りの50年」、高専祭参加(展示発表)準備	
第14回	歴史的な経過	「さっぽろ雪祭りの50年」、高専祭参加(展示発表)準備	
第15回	前期末試験	まとめ	×
第16回	分類	「和語・漢語・外来語・混種語」、高専祭参加(展示発表)準備	
第17回	分類	「和語・漢語・外来語・混種語」、高専祭参加(展示発表)準備	
第18回	定義	「道具」とは、高専祭参加(展示発表)準備	
第19回	定義	「バリアフリー」とは、 / 待遇表現とは	
第20回	要約	一段落の文章の要約 / 敬語の機能と種類	
第21回	要約	複数の段落からなる文章の要約 / 敬語使用の原則	
第22回	比較・対象	表、箇条書き、 / 敬語の(ら)れる	
第23回	比較・対象	「税金と福祉、スウェーデンとの比較」 / お・ご~になる・する	
第24回	因果関係	「お魚増やす植樹運動」 / 特別な形の敬語、敬語化する部分	
第25回	因果関係	「お魚増やす植樹運動」 / 丁寧語、(さ)せていただく	
第26回	面接	面接試験について知ろう、プロフィールを作る	
第27回	面接	進学と奨学金応募のための面接 質問の答え・答え方を考える	
第28回	面接	進学と奨学金応募のための面接 質問の答え・答え方を考える	
第29回	面接	進学と奨学金応募のための面接 質問の答え・答え方を考える	
第30回	後期末試験	まとめ	×

課題とオフィスアワー

課題： 沼津国際交流協会スピーチコンテスト「日本語の部」参加、 近隣地域のイベント参加、 自由テーマの作文作成、の中からひとつ選択。条件、締め切り等については前期オリエンテーションにて説明

評価方法と基準

評価方法

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

評価基準

前期・後期(試験40%, 課題・提出物40%, 出席・授業態度20%)
学年末評価(前期40%, 後期40%, 選択課題20%)

教科書等	二通信子他著、改訂版『留学生のための論理的な文章の書き方』(リ-エ-ネットワーク)¥1,400 安藤節子・小川誉子美著、日本語文法演習『自動詞・他動詞、使役、受身』 ボイス、 小川誉子美・前田直子著、日本語文法演習『敬語を中心とした対人関係の表現』 待遇表現 、(リ-エ-ネットワーク)各¥1,300+税、 その他必要に応じて教員が用意した資料
先修科目	日本語初級・中級、日本事情、
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	授業の目標を明確に説明するよう心がける。伝達事項を理解しているかどうか確認するよう心がける。
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 留学生の理解度に応じてシラバスの変更を行うことがあります。